

「私はソーシャルワーカー」

社会福祉法人 悠々福祉会 加賀淳子

私は、芦原温泉で有名な福井県あわら市に有る、『地域活動支援センター』で働いています。毎日、20名程度の利用者の方と楽しく活動したり、リクリエーションをしたりしています。勤務経験は3年で、福祉の仕事の経験はあまりありませんが、この度原稿を掲載して頂けるという事で、大変恐縮しております。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

私の勤務先である社会福祉法人 悠々福祉会は、『障害福祉サービス事業所あすなろ』と『相談支援事業所さかい』、そして、私の所属する『地域活動支援センター さかい』の三事業所で構成されています。発足当時は、精神障害者の方の為の『あすなろ工房』という作業所でした。ですので、今でも通所されている9割以上の方は、精神の障害を持っている方です。職員数は、十数名と小規模ですが、利用者の方も職員も全員がひとつの家族の様な雰囲気です、それが自慢の種です。

実は、私が福祉の仕事を目指したのは7年前でした。その頃、精神保健福祉士という国家資格がある事を知り、私の姉は統合失調症に罹患していたのですが、それがきっかけで5年前（40代後半）に資格を取得しました。実務経験が無い私でしたが、今の職場では「相談支援事業所」の方の業務をやらせてもらっていた時期もあり、知識豊富な指導者にも恵まれ、私の様な初心者でもなんとかソーシャルワークの仕事を見せてもらえました。もう一つラッキーだったのは、あわら市と隣接した坂井市の二市で設立されていた『障害者自立支援協議会』で、坂井市の社会福祉課の方が精神保健福祉を熱心に推進されていて、『精神障害者支援部会』も設けられ、取り組む様になったことです。

次に、精神に障害をお持ちの方への支援を行う中で、日頃私が大切に思っている事に少し触れてみたいと思います。

第一に、精神障害者に対する理解促進です。精神障害をお持ちの方への理解度は、ここ数年良くなっています、やはりまだまだのようです。

特に、御家族の方や、行政・教育・司法等の関係機関の理解が得られにくい現状があります。この様な環境に働きかける間接的な支援では、精神障害をお持ちの方への直接的な支援よりも苦勞させられています。精神疾患の理解については、ある利用者の方に、「周囲の理解が得られれば、統合失調症は発病しないか、発病しても軽い程度で済む」と言われた事があり、これは本でも読んだ事があり、大切だと思っています。他にも、「統合失調症に対する偏見があるので、辛い思いをしている。」とか、「辛いのに、両親には怠けていると怒られる。」等、利用者の方に言われる度に、何もできない無力な自分を痛感しています。夜一人になると、涙が出てくやしい思いをすることもあります。そんな中でも、利用者の方は頑張って生活しておられます。私は「幻聴・鬱状態等で辛い思いをしている利用者の方の気持ちを、出来るだけ多くの方に解っていただきたい」又、「精神障害をかかえながらも、優れた才能をもち、自分の夢の為に頑張っている方がいる事を知っていただきたい。」

と思いながら業務に励んでいます。

二番目に、これは私の持論ですが、精神に障害をお持ちの方への、地域での一番の処方箋は、“自分の夢をもつ”事だと思っています。(もちろん、服薬を続けられる事は必要ですが・・・)何故なら、健常者の方は、自分にぴったり合った仕事ではなくても、生活の為に働いてお金を稼ぐ事が出来ます。しかし、精神に障害をお持ちの方には、職場での人間関係にストレスを感じ易く、リタイアしてしまう方も多いと思います。支援センターでは、SST等で対人関係の練習をしていますが、それに加えて、やはり、自分に一番合った仕事に就く事が、一番良いのではないかと思います。今、支援センターの利用者の中には、心理職に就きたいと勉強を始めている方もおられます。その他にも、楽器や文筆等の特殊な才能を持っている方達もおられ、才能を活かせる場づくりをして行きたいと思っています。しかし、何がしたいか解らない方、まだ答えが出せない方もおられ、そういった方には、夢が芽生えて行く事を支援し、その気持ちが固まっていく過程を見守ります。それは、支援者自身が夢をもっていないと出来ない事だと思っています。支援者が答えを先に言う事は、あまりありません。私は、それぞれの利用者の方と一緒に夢を見、寄り添う支援を行っていきたいと思っています。その夢がかなった時には、本当に幸せだなと実感致します。

三番目に、本人主体の真の支援を行うことです。最近、ある不登校の方の支援をした事がありました。私の姉は、高校在学中に発病し、復学しようと何度も何度も試みたのですが、結局、高校を卒業できませんでした。その失敗が、私の脳裏をかすめたのか、この利用者だけは絶対助けたいという思いがありました。周囲の関係者と意見が食い違う事もありました。幸い、ご両親は病気に対して理解がある方で、上司にも応援してもらう事が出来、本人もやりたい事を見つけた様子で、大変嬉しかった事を覚えています。精神疾患に罹っておられる方、特に若い方には、正しい方向性での支援を行わなければうまく行かないと思います。大人の世界の常識だとか世間体から発想の転換をしなければならない場合もあります。又、利用者の方の言葉の中から学ばせていただく事もあります。例えば「昼間引きこもるのは、誰かを傷つけてしまうから。夜だったら外出できる。」等。そして、最終的に、利用者の方が笑顔になる事が目標です。

こういった精神障害者への支援をして行く為には、私自身が研鑽を積んで行かなければならないと思っています。しかし、ソーシャルワーカー一人の力だけでは、到底及ばない事もあります。今、私には「グループホームやフリースクール等の社会資源の建設にも、行政や地域の方々とソーシャルワーカーが、共に歩んで行けるようになれば良い。」という願いがあります。今後共、ご指導・アドバイス等いただけますよう、宜しく願い申し上げます。